

## 「聖教類研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、川崎大師教学研究所が所蔵する聖教の整理、並びにその研究を目的とし、平成 27 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所前所長 福田亮成（研究会代表）
- ・川崎大師教学研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究所研究員 鈴木晋雄
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

本年（令和 3 年）は、前年に引き続き、義剛（?～1715）撰『釈論打集類聚』をテキストとして、翻刻・書き下し作業の完成を目指した。しかし「COVID-19」（新型コロナウイルス感染症）の流行に伴い、資料をつき合わせての研究会開催が困難となり、大幅な遅れを余儀なくされた（本年は未開催）。

## 『羯磨文談義』研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、『羯磨文談義』の研究を目的として、平成 29 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究研究所研究員・大正大学非常勤講師 別所弘淳  
(研究会代表)
- ・大正大学名誉教授 苫米地誠一
- ・龍谷大学特任准教授 大谷由香
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信
- ・大正大学大学院博士後期課程満期退学 荒谷友美 (旧姓：池田)

本研究会では大正大学図書館所蔵本(旧平等心王院所蔵本)を底本とし、西大寺所蔵本、川崎大師教学研究研究所所蔵本(旧新大仏寺所蔵本)、現光寺所蔵本(真言宗智山派：京都・木津川市)を対校本として、翻刻・校訂作業を進めている。

現在は一応の翻刻が終わり、西大寺・川崎大師本との校異を確認したところである。しかし新出資料である現光寺本の精査、並びに校異が途中のため、研究会全員により確認作業が進められている。また校訂作業が終了した段階で、内容の検討や訓読作業を進めていくことを考えている。

本年(令和3年)は「ZOOM」によるオンライン研究会の導入により定期的な開催が可能となり、研究効率が飛躍的に向上した。これにより昨年に比べて『羯磨文談義』の翻刻校訂作業も順調に進んでいる。

今後もオンラインを中心として定期的に研究会を開き、より一層の研究進展に努めたい。